

県内経済は、生産活動が一進一退、公共工事、雇用情勢等の悪化とともに、原油を始めとする原材料価格高騰の影響が様々な業態に及び、悪化傾向にある。また、最近の米・欧の金融システムの動揺、実体経済への影響について注視の必要性が高まってきている。

1. 平成20年8月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額は（全店舗ベース）は7ヵ月ぶりに前年を下回った。乗用車新車販売は、軽自動車が増加したものの大型、中小型乗用車がともに低調となり再び前年を下回った。生産活動は、外需に支えられた非鉄金属、精密機械工業などの業種は堅調であるが増勢基調に一服感がみられる。投資動向をみると、公共工事は、請負金額が2ヵ月連続で前年を上回ったが件数は県および市町村などの発注減により再び前年を下回った。建築着工（民間・非居住用）は、床面積が4ヵ月ぶりに前年を上回った。しかし棟数が5ヵ月連続、工事予定額が4ヵ月連続で前年を下回った。新設住宅着工戸数は、分譲住宅は増加したものの、持家および改正建築基準法施行後も堅調だった貸家が2ヵ月連続で前年を大きく下回り全体では4月以来の大幅な減少となった。倒産状況は、保証協会の代弁状況をみると件数、金額とも増加し悪化している。雇用情勢は、新規求人倍率、有効求人倍率がともに10ヵ月連続で前年を下回るなど悪化している。

〔消費動向・基調判断 減少〕

大型小売店販売額（全店舗ベース）は、飲食料品は伸びたものの衣料品を始めとする商品が全般的に低調に推移し7ヵ月ぶり、既存店ベースでは5ヵ月連続でともに前年を下回った。乗用車新車販売は、軽自動車は2ヵ月連続で増加したが、大型車、主力の中小型車がともに低迷し全体では再び前年を下回った。消費者物価指数は、生活必需品などの価格上昇により前年同月比で12ヵ月連続して上昇した。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、薄型テレビ、DVDレコーダーは好調であるが、デジタルカメラ、パソコン、携帯電話ならびに前月まで好調だったエアコンも低迷し全体では前年をやや下回る水準で推移した。ホームセンターは、家庭用品、ペット用品などが堅調で全体ではほぼ前年並みの水準で推移した。旅行取扱額は、燃油特別付加運賃の高騰の影響が大きい海外旅行および国内旅行の個人・団体がともに伸び悩み減少傾向が更に強まった。

〔投資動向・基調判断 減少〕

公共工事は、請負金額が郡山駅前再開発事業発注などにより2ヵ月連続で前年を上回ったが、件数は国、県および市町村などの発注減により再び前年を下回った。7月の建設着工（民間・非居住用）は床面積が4ヵ月ぶりに前年を上回ったものの、件数が5ヵ月連続、工事予定額が4ヵ月連続で、ともに前年を下回った。新設住宅着工戸数は分譲住宅が増加したが、持家は低迷、貸家は減少が強まり全体では再び前年を下回った。

〔生産活動・基調判断 一進一退〕

7月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、106.7（前月比 Δ 1.2%）と4ヵ月ぶりに前月を下回った。原指数では、111.3（前年同月比+1.6%）と7ヵ月連続で前年を上回ったが四半期指数では平成19年第4四半期より上昇幅が縮小傾向となっている。大口電力販売量は、化学、非鉄金属、輸送用機械などで増加し前年同月比+5.7%となったが前年実績を下回る業種が増加してきた。

〔企業倒産・基調判断 悪化〕

負債金額10百万円以上の企業倒産状況は倒産件数、負債金額が前年同月比を大きく下回り一服となったものの、福島県信用保証協会の代位弁済状況は件数が6ヵ月連続、金額が2ヵ月連続でともに大きく増加しており依然悪化増勢基調にある。

〔金融動向・基調判断 低調〕

8月末の預金残高は18ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、前年同月比+1.2%と2ヵ月連続で前年を上回ったが基調としては低調に推移している。

〔雇用動向・基調判断 悪化〕

新規求人倍率、有効求人倍率（原数値）がともに10ヵ月連続で前年を下回った。また、季節調整値でみた新規求人倍率は0.99倍で平成15年8月以来の1倍割れが続き、有効求人倍率は0.66倍で平成15年10月の水準まで更に低下するなど雇用情勢は悪化している。

県内経済動向の概要

	項目	平成20年6月		7月		8月	
		前年同月比	前月比	前年同月比	前月比	前年同月比	前月比
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	↗	↘	↗	↗	↗	↗
	乗用車新車登録台数	↗	↗	↗	↗	↘	↘
	消費者物価指数（総合）	↗	↗	↗	↗	↗	↗
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	建設着工棟数（民間・非居住用）	↗	↗	↗	↗	-	-
	新設住宅着工戸数	↗	↗	↗	↗	↘	↘
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	↗	↗	↗	↗	-	-
	大口電力販売量	↗	↗	↗	↗	↗	↗
企業倒産	企業倒産件数注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	企業倒産金額注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
金融動向	預金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	貸出金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	新規求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗

良化 ↗ 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇔ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇔ 悪化 ↘

注1：前月比は季節調整値、前年同月比は原指数。注2：負債総額10百万円以上。注3：前月比は季節調整値。前年同月比は原指数。

2. 県内経済動向

消費動向

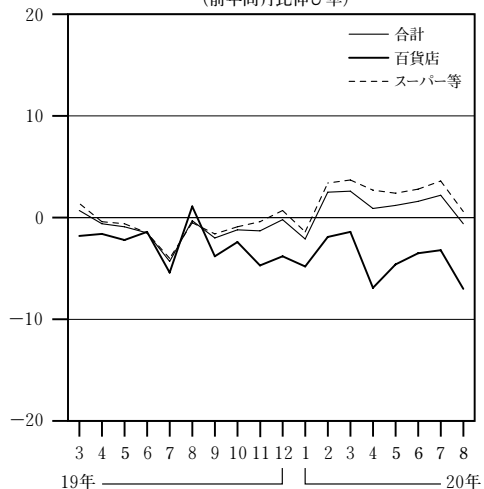
大型小売店 8月の県内大型小売店の販売額は、飲食料品は伸びたものの、紳士・婦人服などの衣料品や履物やハンドバックなどの身の回り品を始め全般的に低調な推移となり全店舗ベースで196億51百万円（前年同月比0.6%減）と7ヵ月ぶり、既存店ベースでも同2.7%減と5ヵ月連続で前年を下回った。（注：既存店とは調査月において当月と前年同月でともに存在した事業所の数値。）

業態別に内訳をみると百貨店は、主力の紳士・婦人服などの衣料品を始め、身の回り品、家庭用品などが低調に推移し全店舗ベースで28億10百万円（同7.0%減）と既存店ベース（同7.0%）とともに12ヵ月連続で前年を下回った。

スーパーは、衣料品、家庭用品などが低調だったものの、主力の飲食料品の伸びに支えられ全店舗ベースでは168億41百万円（同0.6%増）と微増ながら7ヵ月連続で前年を上回ったが既存店ベースでは同1.9%減と再び前年を下回った。

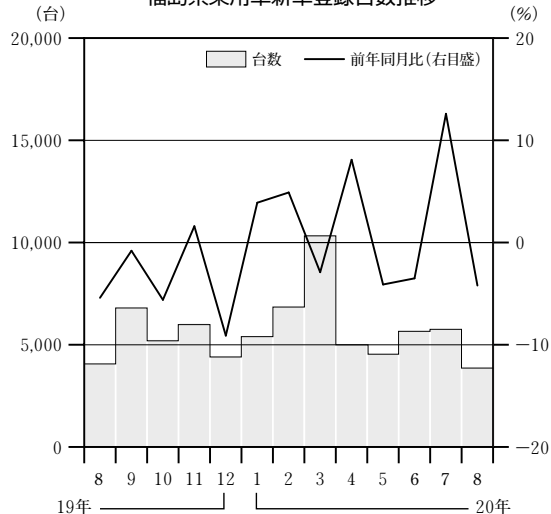
乗用車販売 8月の乗用車新車登録台数（軽乗用車含）は、合計で3,972台（前年同月比4.2%減）と再び前年を下回り低水準の中で一進一退となっている。車種別でみると、大型乗用車が454台（同1.9%減）、主力の中小型乗用車が1,992台（同12.1%減）と、ともに3ヵ月ぶりに前年を下回った。一方、軽乗用車は1,526台（同7.6%増）と2ヵ月連続で前年を上回った。

福島県大型小売店販売額（全店舗）
（前年同月比伸び率）



（資料：経済産業省）

福島県乗用車新車登録台数推移



（資料：福島県自動車販売店協会）

8月の乗用車中古車販売台数（軽自動車は名義変更を含む）は、合計で7,995台（前年同月比10.8%減）と平成19年3月以来の2桁台の減少幅となり再び前年を下回った。車種別にみると大型乗用車は2,336台（同9.5%減）と2ヵ月ぶり、中小型乗用車は3,117台（同13.3%減）と15ヵ月連続、軽乗用車は2,542台（同8.8%減）と3ヵ月ぶり、いずれも前年を下回った。

消費者物価指数 8月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成17年=100）でみると、103.6（前月比+0.3%）となり前月の横這いから再び上昇した。

また、前年同月比では+3.4%と上昇幅が前月に引き続いて3%台に乗る大幅なものとなり12ヵ月連続して上昇した。

費目別の指数動向をみると、「光熱・水道」で116.1（前月比+0.9%）と6ヵ月連続、「交通・通信」で108.8（同+0.6%）と4ヵ月連続、「教養・娯楽」で99.5（同+1.4%）と3ヵ月連続、「食料」で105.3（同+1.3%）と2ヵ月ぶり、いずれも前月を上回った。

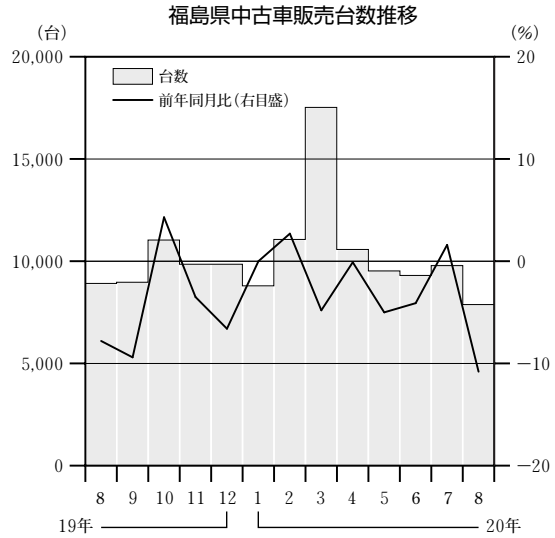
一方、「被服及び履物」で94.4（同△6.1%）と3ヵ月連続、「家具・家事用品」は96.8（同△0.2%）、「住居」は100.0（同△0.3%）と、ともに再び前月を下回った。「保健医療」は97.9、「教育」は102.4で前月と変らなかった。

家電量販店 8月の売上は、薄型テレビ、DVDレコーダーは好調、ビデオカメラ、洗濯機などは動きがみえ始めたものの、前月まで好調だったエアコンが落ち込み、デジタルカメラ、パソコンなどは低調、昨年秋に販売方法変更で買い替え需要の低迷が続く携帯電話は不振であり、全体では前年をやや下回る水準で推移した。

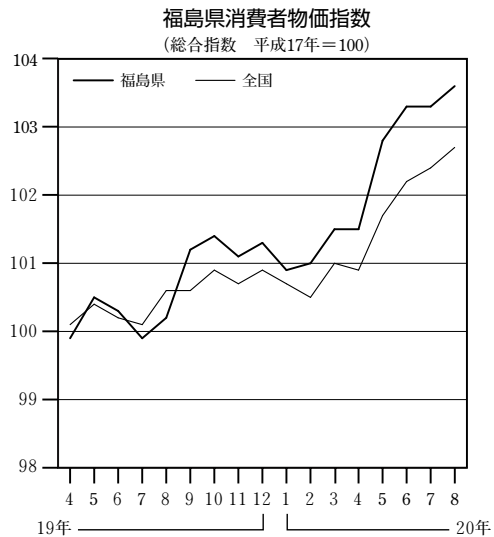
ホームセンター 8月の売上は、家庭用品、ペット商品、園芸用品などが堅調、商品単価の引き上げなどもあり全体ではほぼ前年並みの水準で推移した。

旅行 8月の旅行取扱額実績は、国内旅行が個人・団体とも伸び悩みが顕著となり、燃油特別付加運賃が上昇した海外旅行とともに厳しい状況が続き前年を下回った。

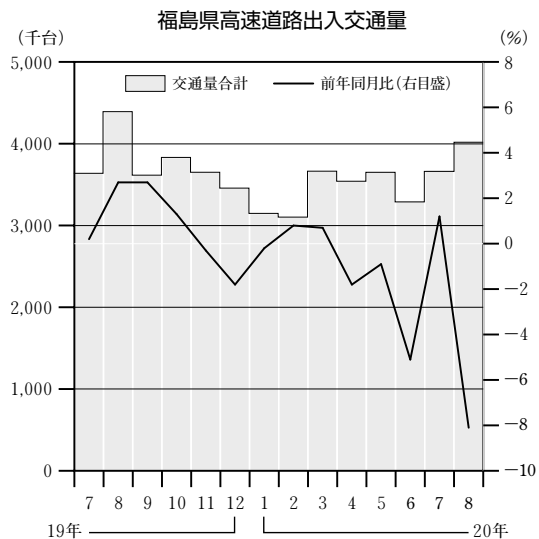
高速道路 8月の県内自動車道通過台数は4,046,476台（前年同月比8.1%減）と今年最大の減少幅となった。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,283,429台（同7.1%減）と5ヵ月連続、磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は301,304台（同9.0%減）、磐越自動車道（磐梯



(注) 軽自動車は名義変更台数含む
資料：(社)日本自動車販売協会連合会 福島支部
(社)全国軽自動車販売協会連合会



(資料：総務省統計局)



(資料：東日本高速道路(株)東北支社)

熱海 IC～西会津 IC)は602,874台(同10.2%減)と、ともに2ヵ月ぶり、常磐自動車道(いわき勿来 IC～常磐富岡 IC)は858,869台(同9.1%減)と10ヵ月連続で、いずれも前年を下回った。今年に入り前年実績を下回る月が5ヵ月を数え高速道路の利用減少傾向が強まってきている。

福島空港 8月の福島空港国内定期路線の利用状況は、35,416人(前年同月比11.5%減)と11ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると、札幌便は12,959人(同5.9%減)と12ヵ月連続、大阪便は15,468人(同12.5%減)と8ヵ月連続、沖縄便は6,989人(同0.8%減)と2ヵ月ぶりでありいずれも前年を下回った。一方、国際定期路線の利用状況は7,903人(同5.3%増)と2ヵ月連続で前年を上回った。路線別にみると上海便は978人(同50.1%減)と7ヵ月連続で前年を下回った。ソウル便は6,925人(同24.8%増)と7ヵ月連続で前年を上回った。

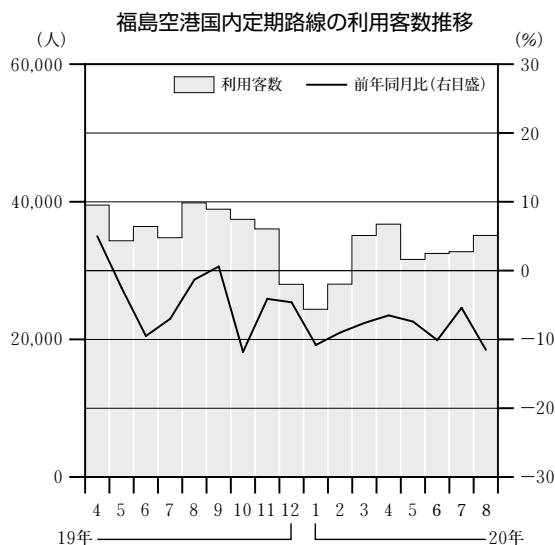
—— 投資動向 ——

公共工事 8月の公共工事前払保証取扱は、件数が531件(前年同月比4.3%減)、請負金額が247億8百万円(同45.6%増)、保証金額が86億34百万円(同34.3%増)となった。件数は国、県および市町村などの発注減により2ヵ月ぶりに前年を下回った。一方、請負金額および保証金額は郡山駅前再開発事業の発注から大幅増になり足元2ヵ月連続で前年を上回ったものの依然公共工事発注状況は低水準である。

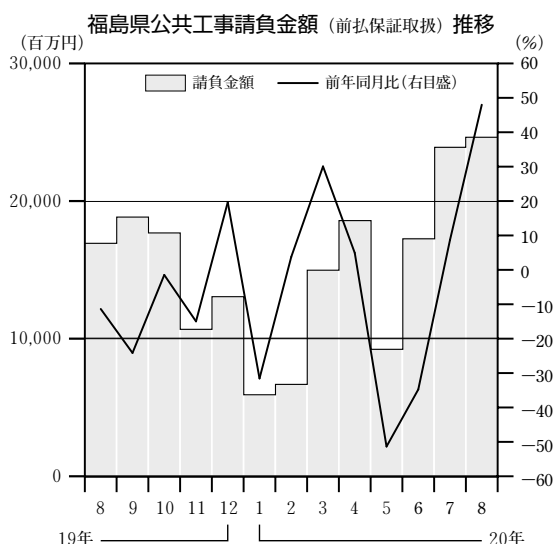
平成20年1月から平成20年8月までの累計で見ると、件数が前年同期比489件減少し3,289件(前年同期比12.9%減)、請負金額が同80億11百万円減少し1,216億90百万円(同6.2%減)、保証金額が同34億59百万円減少し459億37百万円(同7.0%減)である。

主な発注者別の年間累計請負金額は、国が前年同期比35億37百万円増加し252億67百万円(同16.3%増)となっている。一方、厳しい財政事情から公共事業費の抑制が続く県が同158億7百万円減少し343億2百万円(同31.5%減)、市町村が同46億91百万円減少し427億49百万円(同9.9%減)となっている。

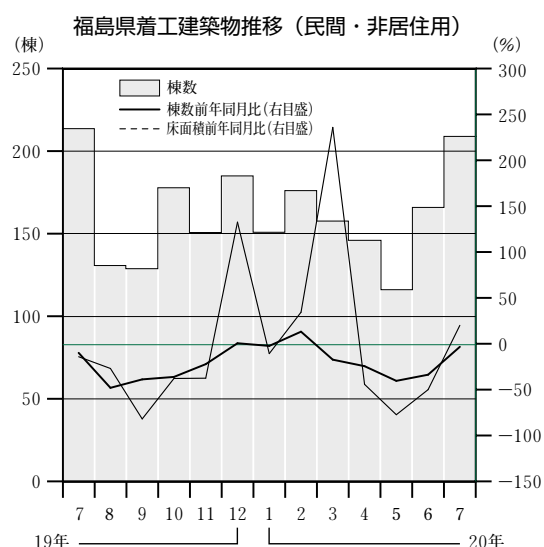
設備投資 7月の建築着工(民間・非居住用)は、棟数が210棟(前年同月比2.3%減)と5ヵ月連続、工事費予定額が113億31百万円(同4.8%減)と4ヵ月連続で、ともに前年を下回った。一方、床面積



(資料：福島県商工労働部空港交流課)



(資料：東日本建設業保証(株))



(資料：国土交通省)

は104,905㎡（同21.1%増）と4ヵ月ぶりに前年を上回ったが依然、非居住用建築物の着工状況は低水準である。

8月の建築物確認件数（計画変更を除く）は、784件（前年同月比5.5%増）と2ヵ月連続で前年を上回った。建築物別にみると、1～3号建物（一定規模以上の建築物が対象）が159件（同16.9%増）、4号建物（小規模な木造・非木造住宅などが対象）が625件（同3.0%増）となり、ともに2ヵ月連続で前年を上回った。「構造計算適合性判定合格件数」は前月比4件増加し24件となった。

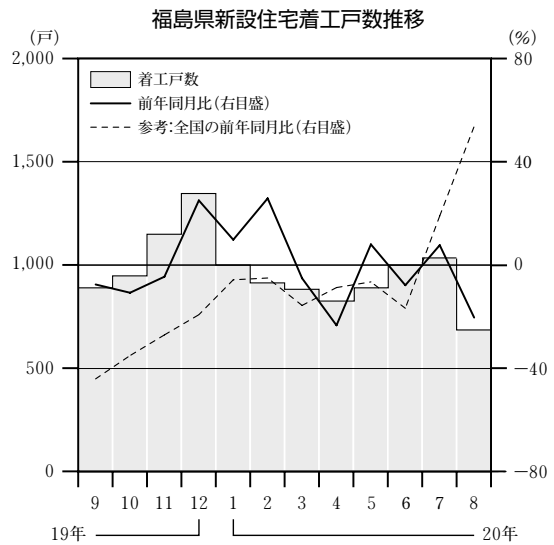
建築物着工の先行指標である8月の建築物申請件数は、806件（同7.3%増）と3ヵ月連続で前年を上回った。建築物別にみると、1～3号建物が160件（同14.3%増）と2ヵ月連続、4号建物が646件（同5.7%増）と3ヵ月連続で、ともに前年を上回った。「構造計算適合性判定申請件数」は前月比5件減少し26件となった。

住宅建設 8月の県内新設住宅着工戸数は、692戸（前年同月比20.3%減）と4月以来の大幅な減少幅になり反落した。

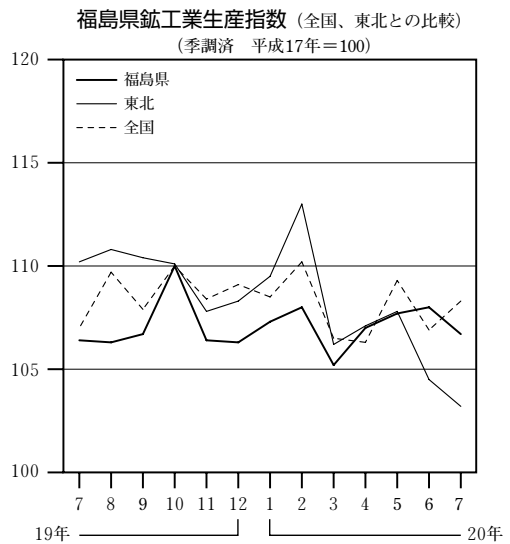
利用関係別にみると、「持家」は465戸（同3.1%減）と2ヵ月ぶり、「貸家」は119戸（同62.8%減）と2ヵ月連続で前年を下回った。一方、「分譲住宅」は108戸（同58.8%増）と2ヵ月連続で前年を上回った。「給与住宅」は2ヵ月連続で着工がなかった。8月時点での持家、貸家、分譲住宅の新設着工戸数はいずれも前年実績を下回っており、低水準での推移となっている。

生産活動

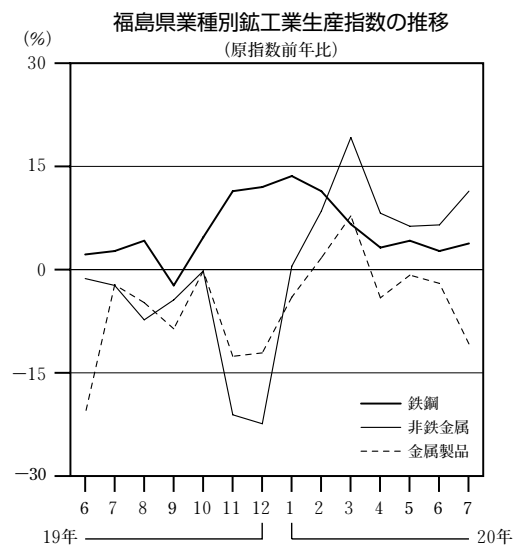
鉱工業生産指数 7月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると106.7（前月比△1.2%）と4ヵ月ぶりに前月を下回った。上昇および低下した主な業種別（季節調整済指数）では、木材木製品工業で79.2（前月比+14.9%）、印刷業で124.4（同+10.0%）、食料品・たばこ工業で89.2（同+8.6%）など13業種が上昇した。一方、一般機械工業で107.8（同△8.7%）、繊維工業で66.8（同△7.6%）、電気機械工業で107.2（同△5.6%）となり7業種が低下した。原指数は、111.3（前年比+1.6%）と7ヵ月連続で前年を上回っているが四半期指数では平成20年第2四半期（4～6月）が104.1と平成19年第4四半期111.5から上昇幅が縮小傾向にある。



（資料：国土交通省）



※全国値及び東北値は「平成17年=100」とする確報値を掲載
（資料：福島県企画調整部統計調査課）



（資料：福島県企画調整部統計調査課）

化学 8月の食品包装フィルム用合成樹脂、金属代替プラスチックや炭素繊維などは堅調な生産で推移した。7月の酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）、バリウム化合物（電子部品原料）および電子材料の生産などは前年をやや下回る水準で推移した。

鉄鋼・金属 8月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材、半導体向け電子材はともに前年をやや下回る水準で推移した。建機用は、海外（中国、オーストラリア、中央アジア等）から鉱物資源用、中国関係などからの受注は堅調であるが前年をやや下回る生産となった。車両用は、新幹線およびJR中央線・京浜東北線の更新需要およびドバイなど海外からの受注により引き続き好調に推移した。陸上プラント用バルブ部品は原子力関連などの需要増、船舶用バルブ部品も好調で前年をやや上回る水準で推移した。

輸送用機械 8月の自動車用鋳造品の生産は、国内は一服、海外は北米市場で横這い、東南アジアや中南米向けなどの輸出は引き続き好調で前年をやや上回る水準で推移した。

電気機械 8月の自動車モーター、回転機は好調、電熱炉は横這い、変圧器、配電盤などの生産は前年をやや下回る水準で推移した。

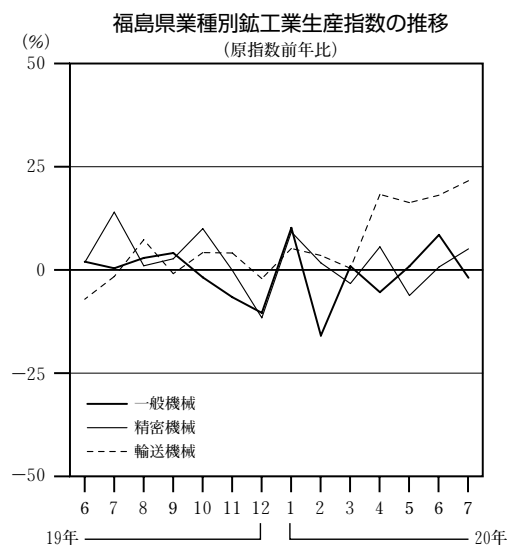
情報通信機械 8月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、前年のアジア・中近東（インド、トルコ等）などからの受注高止まりの影響で前年をやや下回る水準で推移した。衛星通信機器関連、OA関連機器の生産は、前年並みの水準で推移した。

電子部品・デバイス 8月のLSI（大規模集積回路）の生産は、主力のAV・ゲーム機・家電、パソコン・OA、携帯電話向けなどは前年を上回ったものの、産業機器、車載品、通信向けなどが前年を下回り全体では前年をやや下回る水準で推移した。

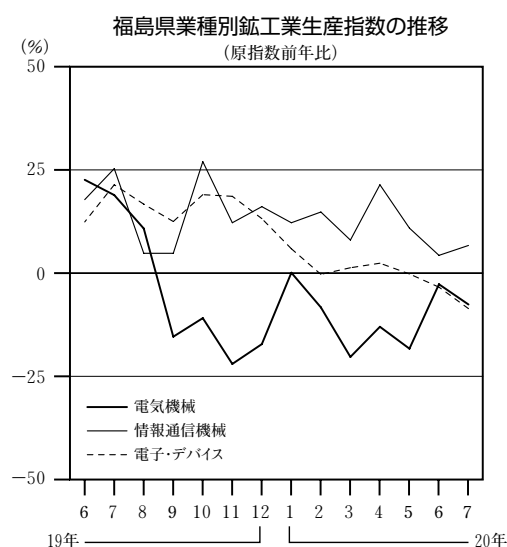
精密機械 8月の医療用内視鏡の生産は前年をやや下回る水準で推移した。デジタル一眼レフカメラ用レンズは前年をやや下回る水準で推移した。

紙・紙加工品 8月の段ボールの生産は、やや下回る水準で推移した。ノーカーボン紙、感熱紙は前年をやや下回る水準で推移したが、インクジェット紙の生産は前年を上回る水準で推移した。

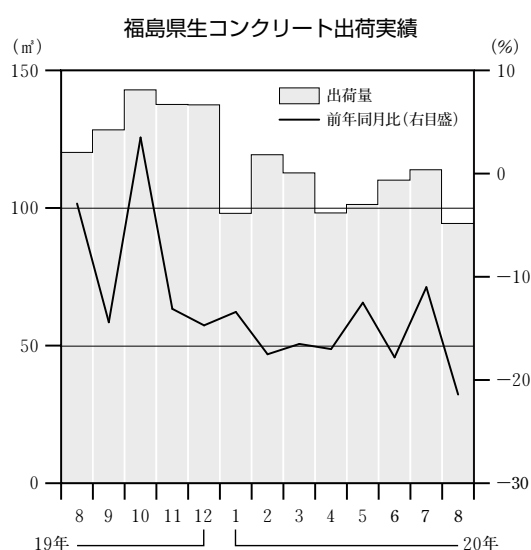
窯業・土石 8月の生コンクリート出荷量は、民需・官公需とも低迷し全体で95,009m³（前年同月比21.4%減）と4月以来の10万m³割れとなり10ヵ月連続で前年を下回った。



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

増加地区は官公需で高速道路工事や砂防、湾岸工事などによる県北地区、いわき地区となった。

木材・木製品 7月の素材（丸太など）の入荷量は、21,318^m（前年同月比19.3%増）と6ヵ月ぶり、販売量は21,198^m（同18.0%増）と2ヵ月連続で、ともに前年を上回った。一方、製材品（合板など）の入荷量は、2,915^m（同5.1%増）、販売量は2,640^m（同19.1%増）と、ともに14ヵ月ぶりで前年を上回った。

7月の木造戸数は、新設住宅着工戸数1,034戸のうち、818戸（木造率79.1%）となった。

清酒 8月の清酒移出数量は、1,037kl（前年同月比7.5%減）と6ヵ月連続で前年を下回った。

タイプ別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が363kl（同6.3%減）と5ヵ月ぶり、一般酒（特定名称酒以外の酒）が675kl（同8.2%減）と6ヵ月連続で前年を下回った。8月時点累計（1月～8月）では、特定名称酒が前年同期比2.5%増、一般酒が同6.1%減となっている。

化合繊維物 8月のナイロンの生産はダウンジャケット（表地）向けを中心に前年を下回る水準で推移した。ポリエステル生産についても、紳士服、婦人服の裏地向けを中心に前年を下回る水準で推移した。

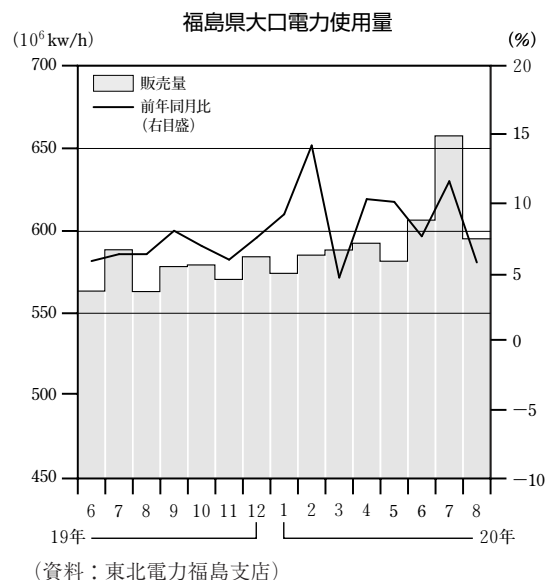
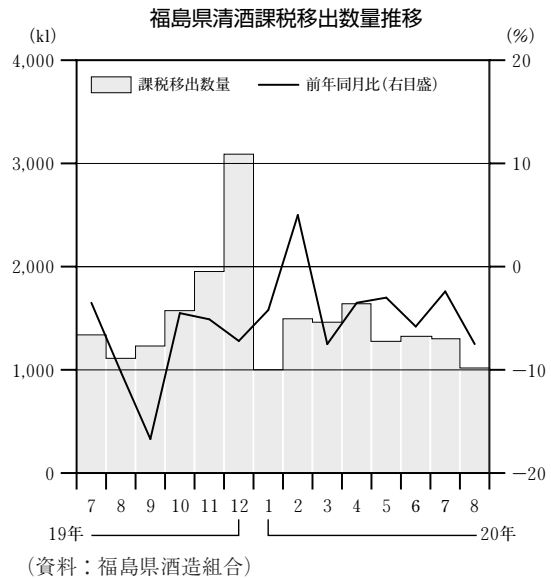
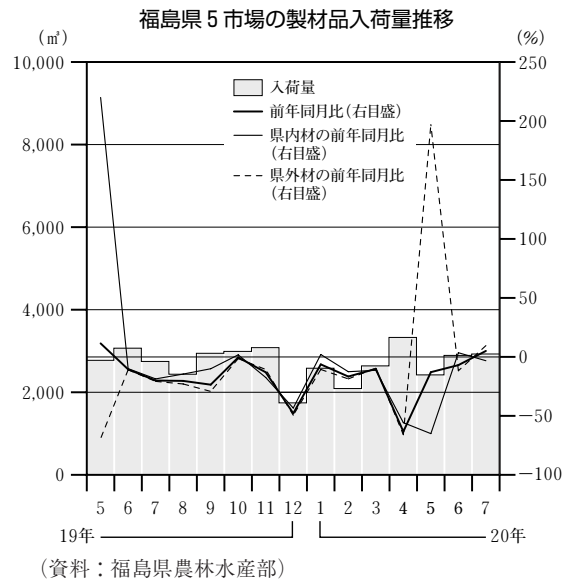
ニット 8月のニットの生産は、消費者の買い控え傾向の強まりから受注・生産は低調な水準で推移した。

大口電力 8月の大口電力販売量は、596百万kw/h（前年同月比5.7%増）と引き続き前年を上回ったものの前年実績を下回る業種が増加してきた。

主な販売先を業種別にみると、「電気機械」で131百万kw/h（前年同月比1.5%減）、「非鉄金属」で131百万kw/h（同35.2%増）、「化学」で55百万kw/h（同9.6%増）、「輸送用機械」で55百万kw/h（同3.4%増）、「一般機械」で30百万kw/h（同4.5%減）、「紙・パルプ」で30百万kw/h（同1.3%減）となった。

企業倒産

企業倒産 8月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は倒産件数が6件（前年同月比60.0%減）と5ヵ月ぶり、負債総額が4億80百万円（同84.8%減）と2ヵ月連続でともに前年を大幅に下回った。倒産件数は平成19年9月以来の一桁台となり、倒産総額は今年最少金額となった。倒産主因別内訳



は、受注・販売不振のみの6件となった。業種別内訳は、建設業5件、小売業1件で、最多業種は建設業で8ヵ月連続となった。地区別内訳は、会津3件、県南2件、県北1件となった。

8月時点累計（1月～8月）は、倒産件数が前年同期比17件増加し108件（前年同期比18.7%増）、負債総額が同441億54百万円減少し539億78百万円（同比45.0%減）となっている。負債金額100万円以上の倒産状況は、件数が7月まで10ヵ月連続で2桁台を続けるなど高水準にある。また負債総額は前年同期比で下回っているが、これは昨年4月に発生した大型倒産（負債金額636億円：パチンコ店）による反動減であり、実体は依然悪化増勢傾向にある。

金融動向

資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の8月末の預金残高は、6兆3,224億円（前年同月比3.3%増）と18ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆8,104億円（同1.2%増）と2ヵ月連続で前年を上回った。

保証協会 8月の保証承諾は、件数が1,017件（前年同月比19.5%減）、保証金額が97億66百万円（同20.4%減）と大幅に減少し、ともに7ヵ月連続で前年を下回った。一方、代位弁済は、件数が122件（同76.8%増）と6ヵ月連続、金額が9億37百万円（同36.4%増）と2ヵ月連続で、ともに前年を大きく上回り悪化傾向が一段と強まってきている。

雇用動向

雇用動向 8月の新規求人数（原数値）は、9,232人（前年同月比31.6%減）と10ヵ月連続で前年を下回った。新規求職申込件数（原数値）は、8,228件（同6.9%減）と3ヵ月ぶりに前年を下回った。県内の雇用情勢は新規求人数の一層の減少から悪化傾向を強めている。

新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.99倍（前月比0.07 \uparrow ）となった。原数値は1.12倍（前年同月比0.41 \downarrow ）と10ヵ月連続で前年を下回った。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.66倍（前月比0.03 \downarrow ）となった。原数値は0.66倍（前年同月比0.22 \downarrow ）と10ヵ月連続で前年を下回った。

